

フルーツ入りハーブティーの開発・販売 山木農園



6次産業化事業をはじめたきっかけ
 榛名の果物の魅力を多くの人に
 知ってほしいという思いから。
 山木久利さん・恵美さん

6次産業化認定事業者（平成27年10月30日認定）

山木農園

〒370-3343 群馬県高崎市下里見町1701-1
 TEL/FAX：027-340-1235

URL：http://www.albero-yamakifarm.com/
 代表者：山木久利 主な事業：果樹作農業等

ジェラート プチ3種盛

330円

ジェラート シングル

330円



ハーブティー（ポット） 400円

焼き菓子は日替わりで、さまざまなお菓子を作っている。

カギは生産者+経営者の 視点を持つこと

榛名山麓南面の県内随一の梨の生産地・里見地区。エコファーマーの認定を受ける山木農園では、梨、プラム、桃など、低農薬の果樹栽培を行っている。二代目のご主人・山木久利さんが就農したのは約17年前。当時の生産は梨のみだった。その後、生産の種類を増やすと同時に、販路の確保や顧客層の新規開拓など、経営的な側面を視野に入れたジェラートショップ「Albero.（アルベロ）」を平成22年にオープン。自家農園で収穫する果実や野菜など、旬の食材を使用した手づくりのジェラートやお菓子、雑貨などを販売。また、



マルシェの様子/毎回約20～30店舗が集結する

消費者の声を ダイレクトにキャッチ

スタート時から山木さんが決めていたのが「1年に1アイテム作

る。その思い通り、榛名地区に新たな人の流れや繋がりが生まれつつある。20店舗ほど集まり、食と雑貨を販売する日曜市を隔月で開催するなど、新たな取り組みに積極的にチャレンジした。「アルベロ」という店名は、イタリア語で「木」を意味する。「木が集まると森になるように、多くの人が集まれるコミュニティ的な場を目指して付けた」と久利さん。その思い通り、榛名地区に新たな人の流れや繋がりが生まれつつある。

取材後記

B級商品の二次利用といった一過性のものではなく、確固たるテーマに基づいたストーリー性のある長期的な計画が事業の発展につながったのだと思う。

また、商品のブランディングに当たって、生産を担当するご主人、カフェを担当する奥様の両者が、思いや感性を共有していることがよくわかった。

る」こと。ジェラートを皮切りに、ジャムや梨のソーダ、ドレッシング、梨の石鹸など、次々と新しい商品を店頭に並べた。そして、6次産業化認定を受けるきっかけとなったのが、果実のドライチップが入ったハーブティーだ。「カフェがあることが、より良い商品の開発に役立っている」と久利さん。消費者の要望や反応をダイレクトにキャッチできるアンテナショップ的な要素を備えているからだ。また、カフェ全般を担当する奥様・恵美さんの女性ならではの感性や心配りも大いに生かされている。

現在は、農業+体験をテーマに、野菜やハーブの種まき、収穫、加工、食べるまでの一連の畑作業の体験も計画している。今後、さまざまな形で行っていく予定だ。